

鳥取県水産試験場からのお知らせ

マアジ加入量調査結果速報

鳥取県水産試験場では日本海区水産研究所、西海区水産研究所および島根県水産技術センターと共同で、マアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたのでお知らせします。本調査結果はホームページにも掲載しております。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/924712/maaji.pdf>

結果の概要

- マアジ幼魚は例年だと島根、対馬海域に多く分布していますが、今年は五島列島、隠岐周辺海域でも多く採集されました。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ幼魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、2003年を1とすると3.03となり過去最高となりました。これから秋に向けて高い来遊水準が期待されます。
- 今年のマアジ0歳魚の漁獲量は前年並に多いことが見込まれます。

マアジ幼魚の採集結果と分布状況

2013年5月下旬から6月中旬にかけて図1に示す鳥取県西部から長崎県男女群島周辺の海域における99地点において、中層トロール網を用いてマアジ幼魚（2014年生まれ）を対象とした漁獲調査を実施しました。その結果、尾叉長2～4cm以上のサイズを主体に合計で59,754尾のマアジ幼魚が採集されました。

マアジ幼魚の分布状況（図1）を見ると、今年マアジ幼魚の適水温と考えられる16～18℃（水深50m）の水温帯が鳥取県から対馬海峡までの大陸棚上に広がっており、採集されたマアジ幼魚の多くはこの海域に分布していました。例年の分布密度は、島根から対馬海峡にかけての海域で高いですが、今年隠岐周辺や五島列島周辺の海域でも高かったのが特徴です。

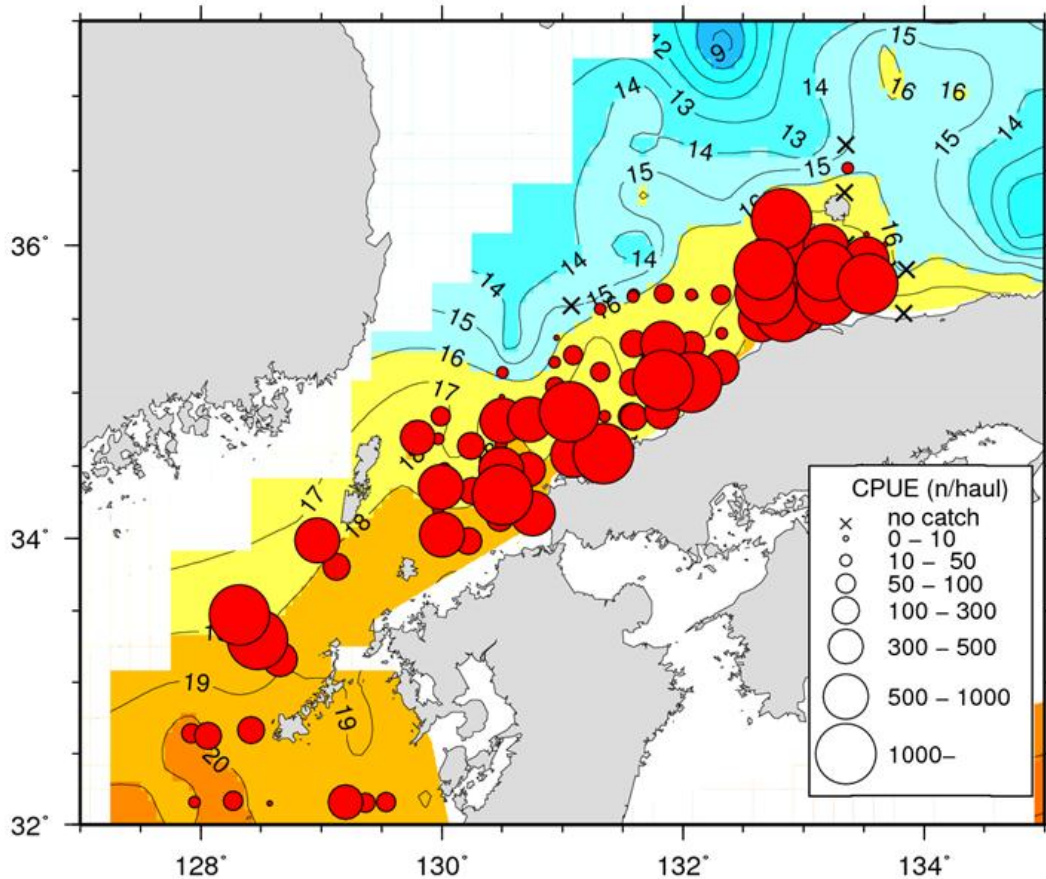


図 1 2014 年のトロール網調査結果 円の大きさはマアジの採集量の多さを表し、×は採集されなかった点を表す。実線の等温線は水深 50m の水温分布を表す。

マアジ幼魚の加入量と今後の漁況

マアジ幼魚の分布量に水深 50m の水温分布を勘案して求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さを表します）は、2003 年を 1 とすると、今年は 3.03 となり、過去最高となりました（図 2）。このため 2014 年は秋期に向けて当歳魚の高い水準での加入が見込まれます。この加入量指数は、その年の 6 月から 12 月の間に境港にまき網によって水揚げされるマアジ 0 歳魚の漁獲尾数とある程度対応がみられることから、今後の山陰沖におけるマアジ 0 歳魚の漁獲量は昨年並の漁獲量になると見込まれます。

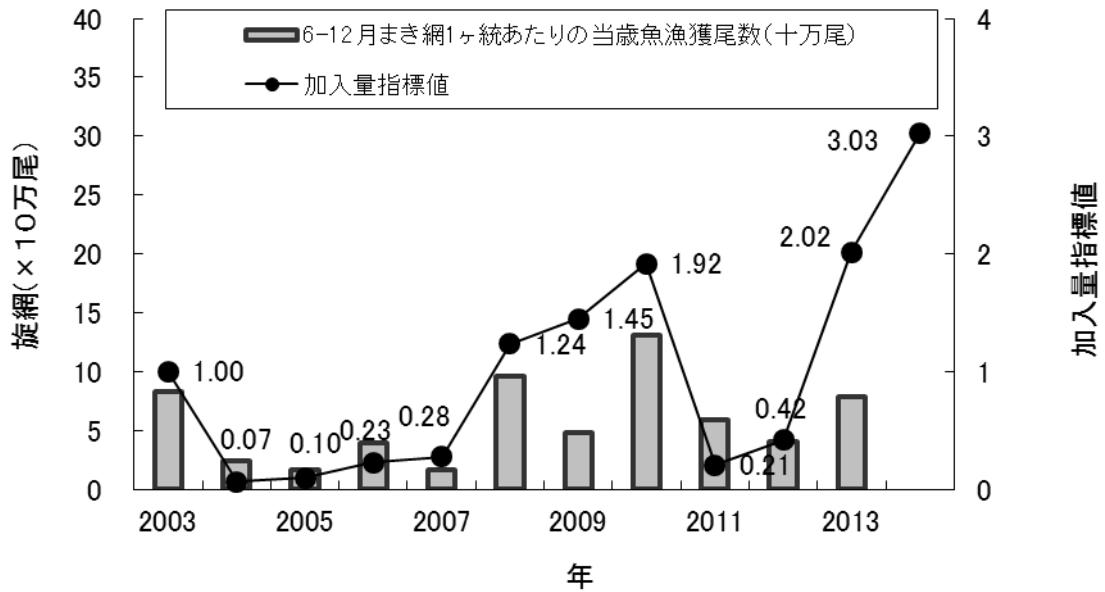


図2 試験操業結果から求めた加入量と境港におけるまき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数（6～12月に水揚げされたマアジ当歳魚の尾数を水揚げしたまき網の数で割った値）の年変化

マアジの資源について

夏季には他の浮魚類の漁獲が減少するため、マアジ0歳魚が集中的に漁獲されることが多いのですが、マアジは小型魚のうちには獲るより、一年後に成長したものを獲るほうが利用価値は高まります。また、小型魚を取りすぎてしまうと来年以降の産卵親魚の減少につながる恐れがあるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが大切です。平成24年度以降は新たに策定された「資源管理指針・計画」のもと、まき網漁業者を主体に小型魚を漁獲状況に応じて獲り控える取り組みが実施されています。こうした取り組みを実施することで、マアジ資源の持続的な利用につながることを期待しています。

担当 尾田
TEL 0859-45-4500